

大阪帝國大學助教授 工學士 松川 達 夫君
(齋藤大吉博士代講)

午前 11 時 45 分講演を終り香村賞牌贈呈式に移る。

香村賞牌贈呈式 午前 11 時 45 分

先づ香村賞牌受領者並に賞牌及び表彰狀、受領者推薦理由書等の印刷物を配布し、壇上大卓子を前に野田會長より嚴肅なる式辭を述べられ(式辭別項)。次で梅根博士を壇上に招かれ表彰狀及び賞牌を贈呈さる。(一同拍手)。視電披露。

日本鐵鋼協會大會を祝し併て賞牌受領者梅根君に敬意を表す 香村小録。

贈呈式後一同ホテル前大玄關階段に集合し記念撮影を行ふ。時に 12 時。

晝食 大連市役所の招待にて出席者全員ホテル大食堂に會食す。市助役岡野氏より挨拶あり野田會長謝辭を述べらる。

午後 1 時 講演開始

司會者。京都大學教授 西村秀雄氏

講演番號 6、電氣製鋼實驗的研究

三菱重工業會社社長崎造船所 工學士 中村 道 方君

同 7、歐米に於ける傾注式平爐及其作業と八幡製鐵所に於ける現況

日本製鐵會社八幡製鐵所 工學士 松原 武三郎君

同 8、鑄鐵の鑿に就て 新潟鐵工所 松浦 春吉君

同 9、高温高壓氣罐用鋼管の腐蝕に就て

住友伸銅鋼管會社 絹川 武良司君

質疑。唯今の講演中酸化鐵と申されましたが其意味は(藤原氏)回答、明確に御答へ出来ませぬが $FeO \sim Fe_3O_4$ の意です。

10 分間休憩。水谷理事の司會により繼續開會さる。

講演番號 10、ニッケル合金鋼の鍛鍊上考慮を要すべき二三の點に就て 日本ニッケル情報局 藤原 唯義君

同 11、佐々川清君の講演は都合により本人より取消された。

同 12、銅、アルミニウム、珪素三元系合金の平衡狀態圖に就て(西村秀雄氏代講)

京都帝國大學工學部探鑛冶金學教室 工學士 久恒 中陽君

同 13、デュラルミンの時効硬化の一時的中止に就て

三菱重工業會社名古屋航空機製作所 工學士 池田 傳君
豫定より時間餘り 15 分間休憩す。午後 4 時齋藤博士の司會により講演を繼續す。

講演番號 14、マグネシウム、カドミウム系を基礎とする多元系輕合金の研究

旅順工科大学教授 工學博士 大目方 一司君

滿洲化學工業株式會社 萩谷 正巳君

(大目方君講演)

同 15、鋼の低温脆性に就て

日本特殊鋼會社々長 工學博士 渡邊 三郎君

同 技師 永澤 清君

(永澤君講演)

所定の講演全部を終了す。次で午前中に行はれた香村賞牌受領者梅根博士より會に對する答辭を述べられた(別記)。

野田會長登壇され閉會の辭を述べられ茲に本日の講演大會全部を終了する事を得た。時に午後 5 時。會員の着席を乞ひ大連以北地見

學旅行に關し必要なる注意と希望等 20 分間に涉り鞍山實行委員水津氏より述べられた。

本日大會出席會員實數。

合計出席者 89 名。内譯 内地會員 46 名、朝鮮會員 3 名、滿洲會員 40 名。滿洲會員中純滿洲冶金學會々員 11 名、日本鐵鋼協會及び滿洲冶金學會共通會員、27 名 日本鐵鋼協會會員 2 名、第 4 日以後奥地見學に参加を申込める滿洲冶金學會會員 5 名。

講演大會開會の辭

大會實行委員長 伍 堂 卓 雄君

要旨。日本鐵鋼協會は第十三回講演大會を滿洲に於て開催さるゝ事となり、滿洲冶金學會は之と聯合して第七回の講演會を開く事となり本日豫定通り開催するは慶賀の至りであります。鐵鋼協會長初め多數の會員諸氏は遠隔の地に奮つて御參會下され、當春決定當時は内地よりの出席者 37 名の豫想の由本部からの通知を受け其積りで各委員は準備を進めて居ました處、次々に申込者増加しまして出席名簿にありまます通り内地より 50 名に達し滿洲、朝鮮を合して總計 106 名の多數に達しました。又本日は會員以外の方も傍聽され此會場 130 の席が満員するの盛況となりました事は一に會員諸氏の滿洲視察の熱心による事と鐵鋼に關する學問技術に關し御熱心の致す處と存じます。實行委員に於ては不慣のため諸事不行届の事と思ふが御不滿の點は御寛容の事を前以て私から御願ひ申す。又明日より各地の見學に移る筈でありますが之亦多數の御方に不自由の感を起さるゝ場合もあります事と思ひます。又現在の滿洲は已に完成せる事業もありますが未だ建設の中途にあるとか或は計畫中に屬するものも少くない。特に私の關係して居る昭和製鋼所の如きは創立工事中で雜然として大して御目にかくる程のものはないかも知らぬ。斯様な狀態の滿洲を御覽になる事は諸君に取ては寧ろ好都合であると思ひます、何故なれば皆様は夫々其道の専門家で技術學問の經驗家であるゝからである。昨夜私は通俗講演會に於て日滿經濟の統制に就て述べましたが之は皆様の御批判を仰ぎたい積りである。明日から見學さるゝに就ては日本と滿洲と云ふ意味で御視察下されん事を希望致します。

時間を費して講演時間を空ふする事は恐縮ですから之から直に講演に移ります(拍手)。

香村賞牌贈呈式、式辭

野田會長

工學博士梅根常三郎君は明治 44 年京都帝國大學理工科大學探鑛冶金卒業後直に八幡製鐵所に就職、大正 8 年滿鐵鞍山製鐵所創設に際し聘せられ同所技師として勤務し同 9 年 1 月より同所原料の根本問題たる貧鐵鑛處理研究を始むるや君は之が主班となり各種の研究をなし同 12 年末に至り漸く完成鞍山今日の選鑛工場建設の基礎をなせり。

抑も鞍山の貧鐵鑛は其含鐵分漸く 37% にして夾雜物は殆ど珪酸なり故に其儘原料とすれば技術的には可能なるも經濟的には採算不能にして是非共選鑛せざれば數億噸の貧鐵鑛開發の途なかりしなり。嘗て此の貧鐵鑛は鑛粒極めて微細且つ非常に硬堅にして加ふるに大部分は赤鐵鑛の形として存在するを以て普通の選鑛方法を以てしては處理不可能なりしを同君は數年にわたり磁化焙燒に就き研究をなし各種の困難に逢着せるもよくこれを克服し今日の基礎をなしたり。此方法たるや未だ世界に其類例なくよく之を完成せるは滿洲に散在